

目 次

| | |
|------------|---|
| はじめに | 1 |
|------------|---|

第1章 計画策定の趣旨

| | |
|-------------------|---|
| 1. 計画の目的 | 2 |
| 2. 計画の基本方針 | 2 |
| 3. 計画の期間と対象 | 2 |

第2章 本市における子ども読書活動の現状と課題

| | |
|-----------------------------------|----|
| 1. 読書状況に関するアンケートの調査結果 | 4 |
| (1) 調査概要 | 4 |
| (2) 調査結果 | 5 |
| (3) 調査結果から見える課題 | 13 |
| 2. 前計画の取組と課題 | 14 |
| (1) 家庭・地域における子ども読書活動の推進 | 14 |
| (2) 保育園・幼稚園における子ども読書活動の推進 | 14 |
| (3) 学校等における子ども読書活動の推進 | 15 |
| (4) 福祉・児童センターにおける子ども読書活動の推進 | 15 |
| (5) 図書館における子ども読書活動の推進 | 15 |
| (6) 計画の目標値 | 16 |

第3章 読書活動を推進する具体的な取組

| | |
|-------------------------------|----|
| 1. 家庭・地域における子どもの読書活動の推進 | 17 |
| (1) 家庭における読書活動への支援 | 17 |
| (2) 地域における取組 | 17 |
| 2. 学校等における子どもの読書活動の推進 | 18 |
| (1) 保育所・幼稚園における取組 | 18 |
| (2) 小学校・中学校における取組 | 19 |
| 3. 図書館における子どもの読書活動の推進 | 20 |
| (1) 読書を支援する取り組み | 20 |
| (2) 学校図書館やボランティアとの連携・協力 | 21 |
| (3) 子どもの読書活動の普及と啓発 | 21 |

はじめに

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものとし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で、欠くことのできないものです。

しかしながら、近年、情報メディアの急速な普及・発達は、子どもの生活習慣と子どもを取り巻く読書環境に大きな影響を与えており、瞬時に多様な情報が簡易に入手できるようになった半面、子どもの「読書離れ」や「活字離れ」が指摘されています。

すべての子どもが家庭や学校などにおいて、自主的に読書ができるよう、読書に親しむ機会の提供や読書環境を社会全体で整える必要があります。

国においては、平成 13 年 12 月に子どもの読書活動に関する基本理念を定めた「子どもの読書活動の推進に関する法律」（以下「推進法」という。）を公布・施行し、推進法第 8 条第 1 項の規定に基づき、平成 14 年 8 月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を、平成 20 年 3 月には第二次基本計画、平成 25 年 5 月には第三次基本計画、平成 30 年 4 月には第四次基本計画を策定しました。

これを受け、県においては平成 16 年度に「埼玉県子供読書活動推進計画」を、平成 21 年度に第二次計画を、平成 26 年度に第三次計画を、平成 30 年度に第四次計画を策定し、県内における子どもの読書活動が一層活発化するように努めています。

本市においては、平成 24 年 6 月に「蕨市子ども読書活動推進計画」を策定し、学校での朝の読書活動やボランティアによる読み聞かせ、ブックスタートの実施など、家庭・地域・学校・行政が連携して子どもの読書活動の推進を図ってきました。

このたび、子どもを取り巻く情勢に即した内容とするため、これまでの成果と課題等を踏まえ、今後 5 年間の方向性を示す「第 2 次蕨市子ども読書活動推進計画」を策定いたしました。

第1章 計画策定の趣旨

1. 計画の目的

本市においては、「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月）に基づき、平成24年6月に「蕨市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動推進に取り組んでまいりました。

「第2次蕨市子ども読書活動推進計画」（以下「第2次計画」という。）では、子どもが自ら読書に親しめるよう、本に触れる機会や本を読むための環境をより一層充実するために策定するものです。

2. 計画の基本方針

子どもが自ら読書に親しみ、読書習慣を身に付けていくためには、乳幼児期から発達段階に応じた自主的な読書活動を支援するとともに、家庭、地域、学校等が相互に連携・協力し、社会全体で取り組むことが重要です。

第2次計画ではこれまでの取組と成果、国及び県の第四次計画を踏まえ、次の3項目を基本方針として、子どもの読書活動の推進を図ります。

(1) 家庭・地域、学校等において、子どもが読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実

生活の場である家庭、地域、学校等、子どもたちが生活を送る身近な場所で、発達段階に応じていつでも読書に親しむことができる環境を整え、子どもに読書の楽しみや喜びを広く伝えます。

(2) 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進

子どもの読書活動を推進するためには、子どもへの働きかけはもとより、保護者など周りの大人が読書の意義や大切さについての理解を深めることが求められることから、様々な場面で啓発や広報を推進します。

(3) 子どもが読書に親しむための推進体制の整備

子どもが読書に親しむ体制を推進するため、家庭・地域・学校・図書館等とボランティア・団体がそれぞれの役割を担いながら、相互の連携・協力を図り、社会全体で子どもの読書活動を支えていく体制づくりを進めます。

3. 計画の期間と対象

本計画の期間は、2019年6月から2024年5月までの5年間とし、必

要に応じて見直しを行います。本計画における「子ども」とは、前計画に引き続き、おおむね15歳以下の者をいいます。

第2章 本市における子ども読書活動の現状と課題

1. 読書状況に関するアンケート調査結果

(1) 調査概要

・調査目的

本計画の策定にあたり、子どもたちの読書状況を把握するためアンケート調査を実施しました。

調査内容

質問1 あなたは本を読むことが好きですか。

質問1－①好きな理由は何ですか。

質問1－②嫌いな理由は何ですか。

質問2 あなたは、1か月に何冊ぐらい本を読みますか。

質問3 あなたは本を読むとき、どこで読むことが多いですか。

質問4 あなたが読む本は、どのように選んでいますか。

質問5 あなたは蕨市の図書館(分館含む)を利用したことがありますか。

質問6 図書館(分館含む)を利用したことがないのはなぜですか。

調査方法

- 1) 調査期間 平成30年12月5日から12月26日まで
- 2) 調査対象 小学校3年・5年、中学校2年
- 3) 対象者数 小学3年515人・5年473人、中学2年389人 計1,377人

※回答状況の集計は、小数点第2位を四捨五入しています。

※前計画では対象だった小学4年生が調査対象ではなくなりました。

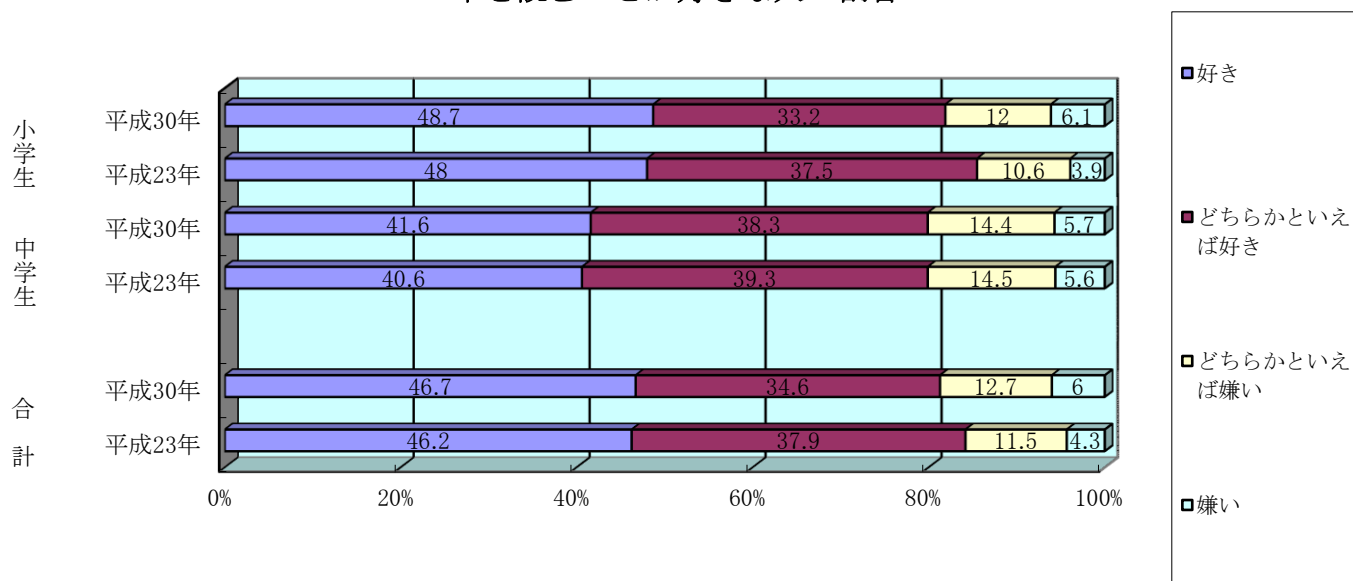
| 調査対象校 | 学年 | 年度 | 調査対象人数 |
|-------|-----|-----|--------|
| 小学校 | 3年生 | H23 | 488 |
| | | H30 | 515 |
| | 4年生 | H23 | 497 |
| | | H30 | — |
| | 5年生 | H23 | 460 |
| | | H30 | 473 |
| 中学校 | 2年生 | H23 | 449 |
| | | H30 | 389 |
| 総計 | | H23 | 1894 |
| | | H30 | 1377 |

(2) 調査結果

【質問1】 あなたは本を読むことが好きですか。あてはまるものを1つ選んでください。

| | | 好き | どちらかといえ ば好き | どちらかといえ ば嫌い | 嫌い |
|-----|-----|-----|----------------|----------------|----|
| 小学生 | H30 | 481 | 328 | 119 | 60 |
| | H23 | 693 | 542 | 153 | 56 |
| 中学生 | H30 | 162 | 149 | 56 | 22 |
| | H23 | 182 | 176 | 65 | 25 |
| 計 | H30 | 643 | 477 | 175 | 82 |
| | H23 | 875 | 718 | 218 | 81 |

＜本を読むことが好きな人の割合＞

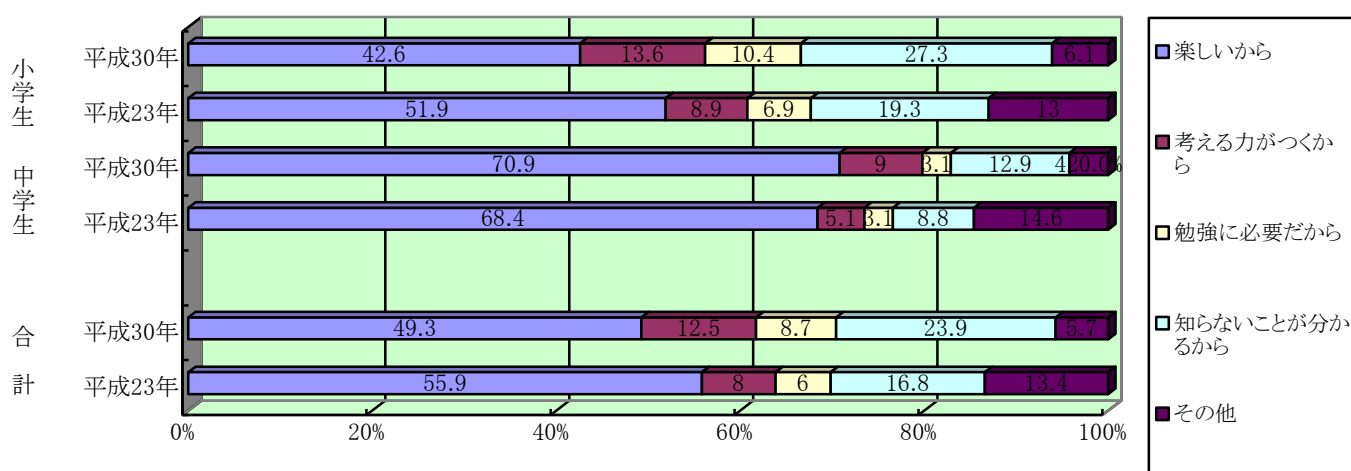


「好き」「どちらかといえば好き」を合わせると、小学生では81.9%、中学生では79.9%でした。前回調査（平成23年）と比較すると、「好き」「どちらかといえば好き」の割合は小学生では減少（△3.6%）し、中学生では横ばいとなっています。

【質問1-①】好きな理由は何ですか。

| | | 楽しいから | 考える力がつくから | 勉強に必要だから | 知らないことがわかるから | その他 |
|-----|-----|-------|-----------|----------|--------------|-----|
| 小学生 | H30 | 493 | 157 | 120 | 316 | 71 |
| | H23 | 749 | 128 | 99 | 279 | 188 |
| 中学生 | H30 | 253 | 32 | 11 | 46 | 15 |
| | H23 | 310 | 23 | 14 | 40 | 66 |
| 計 | H30 | 746 | 189 | 131 | 362 | 86 |
| | H23 | 1,059 | 151 | 113 | 319 | 254 |

<本を好きな理由>

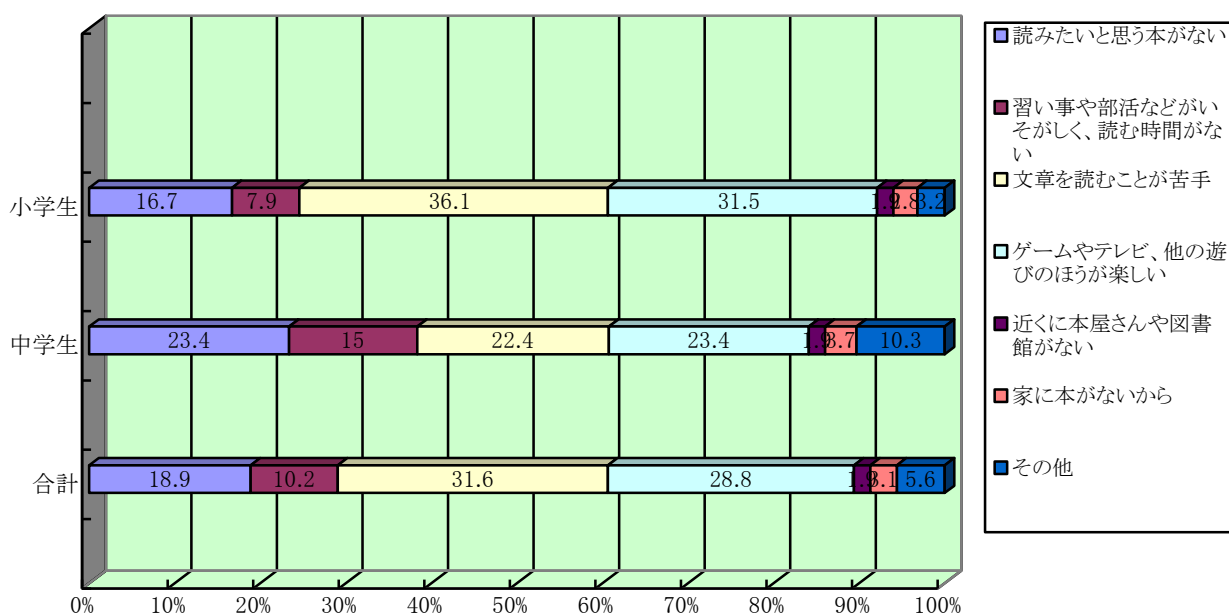


小・中学生ともに「楽しいから」が最も多く、次に「知らないことが分かるから」となっています。前回調査（平成23年）と比較すると、小学生の「知らないことが分かるから」の割合が19.3%から27.3%に上昇しています。

【質問1-②】嫌いな理由は何ですか。

| | 読みたいと思 う本がないか ら | 習い事や部 活でいそがし く、読む時間 がないから | 文章を読むこ とが苦手だか ら | ゲームやテレ ビ他の遊び のほうが好き いから | 近くに本屋さ んや図書館 がないから | 家に本がな いから | その他 |
|-----|-----------------------|------------------------------------|-----------------------|----------------------------------|--------------------------|--------------|-----|
| 小学生 | 36 | 17 | 78 | 68 | 4 | 6 | 7 |
| 中学生 | 25 | 16 | 24 | 25 | 2 | 4 | 11 |
| 計 | 61 | 33 | 102 | 93 | 6 | 10 | 18 |

<嫌いな理由>

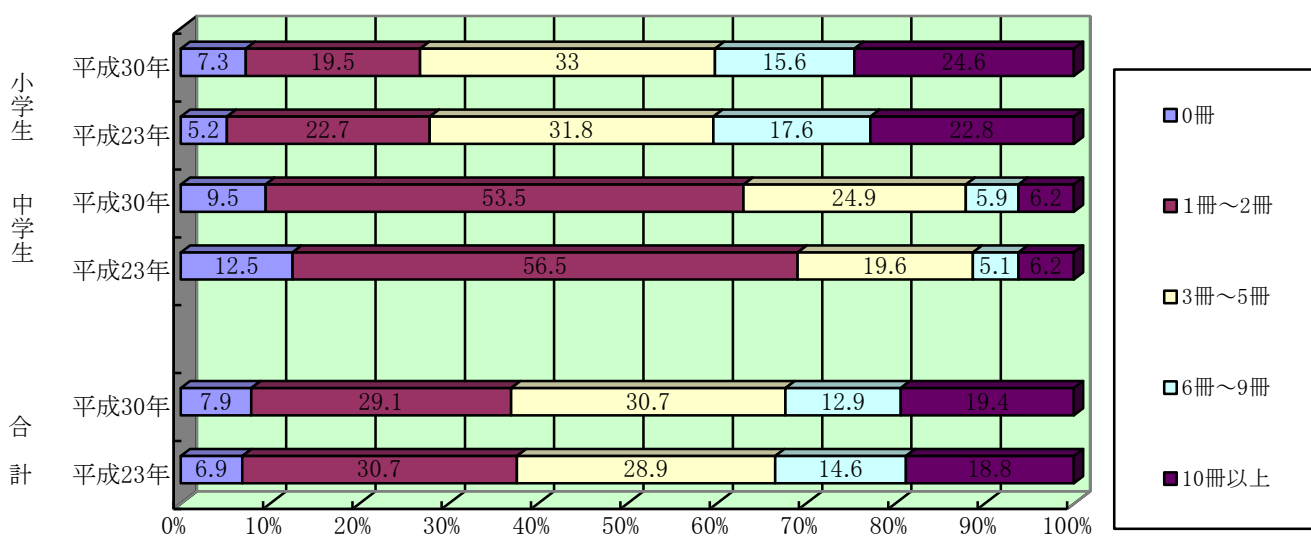


小学生では「文章を読むことが苦手だから」が 36.1%で最も多く、次に「ゲームやテレビ、他の遊びのほうが楽しいから」が 31.5%でした。中学生では「読みたいと思う本がないから」と「ゲームやテレビ、他の遊びが楽しいから」が 23.4%の同率で最も多く、次に「文章を読むことが苦手だから」が 22.4%となっています。

【質問2】 あなたは、1ヶ月に何冊ぐらいの本を読みますか。あてはまるものを1つ選んでください。

| | | 0冊 | 1～2冊 | 3冊～5冊 | 6冊～9冊 | 10冊以上 |
|-----|-----|-----|------|-------|-------|-------|
| 小学生 | H30 | 72 | 193 | 326 | 154 | 243 |
| | H23 | 75 | 327 | 458 | 253 | 328 |
| 中学生 | H30 | 37 | 208 | 97 | 23 | 24 |
| | H23 | 56 | 254 | 88 | 23 | 28 |
| 計 | H30 | 109 | 401 | 423 | 177 | 267 |
| | H23 | 131 | 581 | 546 | 276 | 356 |

< 1ヶ月に本を読む冊数 >

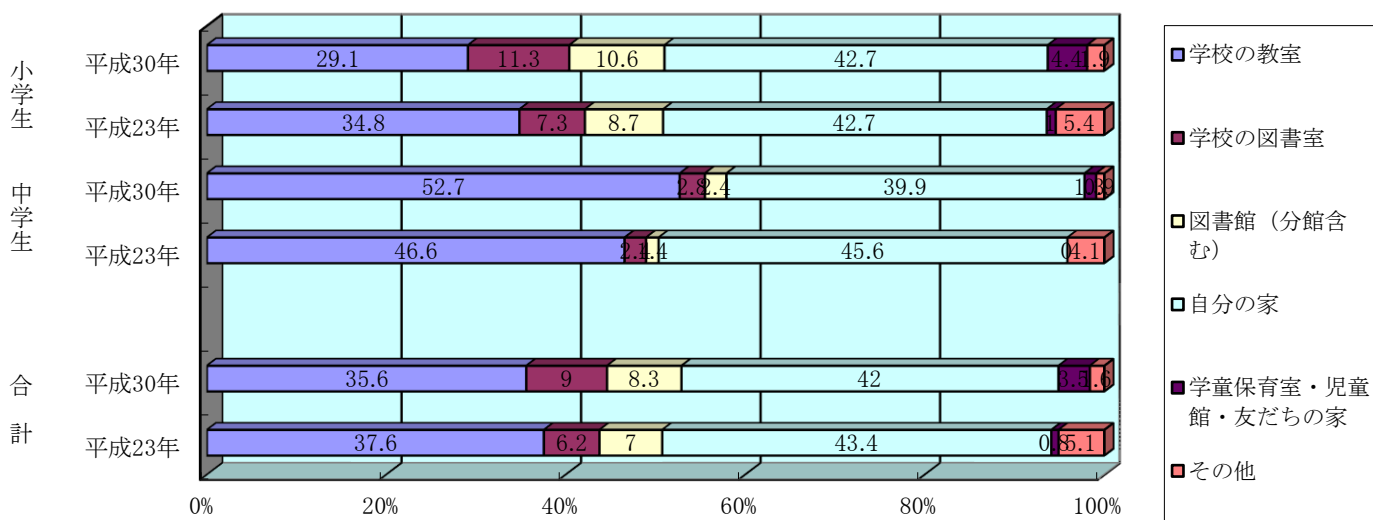


「10冊以上」読むと回答した割合は、小学生では24.6%、中学生では6.2%となっており、一方、「0冊」と回答した割合は、小学生では7.3%、中学生では9.5%となっています。前回調査（平成23年）と比べて、10冊以上読む割合は小学生では増加（1.8%）し、中学生では横ばいとなり、「0冊」と回答した割合は、小学生では増加（2.1%）したものの、中学生では減少（△3.0%）しています。

【質問3】 あなたは本を読むとき、どこで読むことが多いですか。あてはまるものを2つ選んでください。

| | | 0冊 | 1～2冊 | 3冊～5冊 | 6冊～9冊 | 10冊以上 |
|-----|-----|-----|------|-------|-------|-------|
| 小学生 | H30 | 72 | 193 | 326 | 154 | 243 |
| | H23 | 75 | 327 | 458 | 253 | 328 |
| 中学生 | H30 | 37 | 208 | 97 | 23 | 24 |
| | H23 | 56 | 254 | 88 | 23 | 28 |
| 計 | H30 | 109 | 401 | 423 | 177 | 267 |
| | H23 | 131 | 581 | 546 | 276 | 356 |

＜本をよく読む場所＞

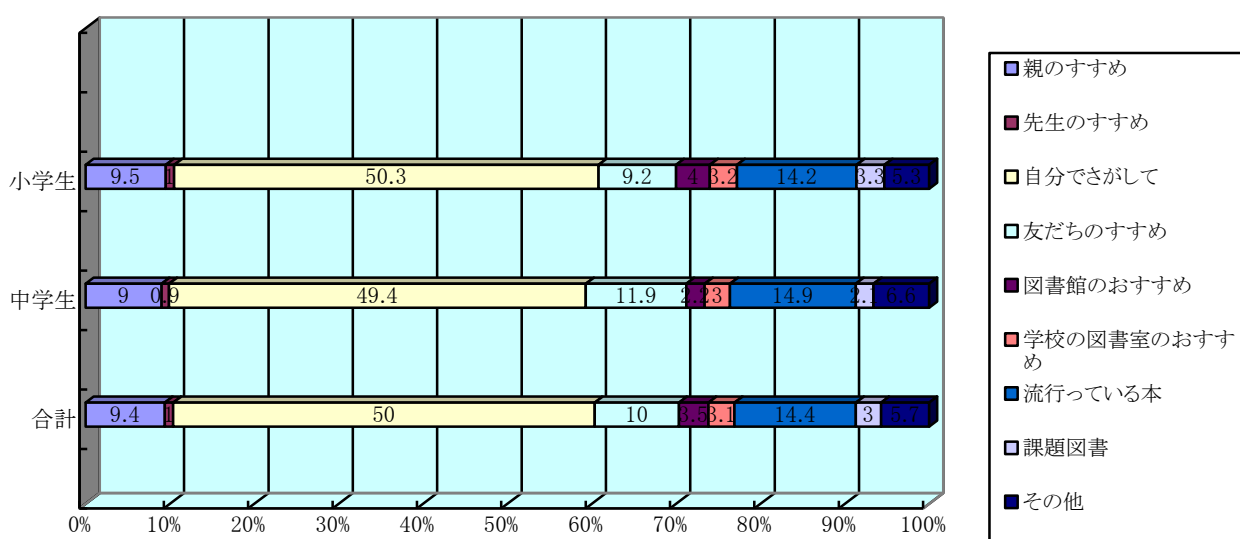


小学生では「自分の家で」が42.7%で最も多く、次に「学校の教室で」が29.1%でした。中学生では「学校の教室で」が52.7%で半数以上の割合を占めており、次に「自分の家で」が39.9%でした。前回調査（平成23年）と比べて、中学生の「学校の教室で」の割合が46.6%から52.7%に上昇しています。

【質問4】 あなたが読む本は、どのように選んでいますか。あてはまるものを2つ選んでください。

| | 親にすすめられて | 先生にすすめられて | 自分でさがして | 友だちにすすめられて | 図書館のおすすめ |
|-----|-------------|-----------|---------|------------|----------|
| 小学生 | 160 | 17 | 845 | 154 | 67 |
| 中学生 | 60 | 6 | 331 | 80 | 15 |
| 計 | 220 | 23 | 1,176 | 234 | 82 |
| | 学校の図書室のおすすめ | 流行っている本 | 課題図書 | その他 | |
| 小学生 | 54 | 238 | 56 | 86 | |
| 中学生 | 20 | 100 | 14 | 44 | |
| 計 | 74 | 338 | 70 | 130 | |

<本の入手方法>

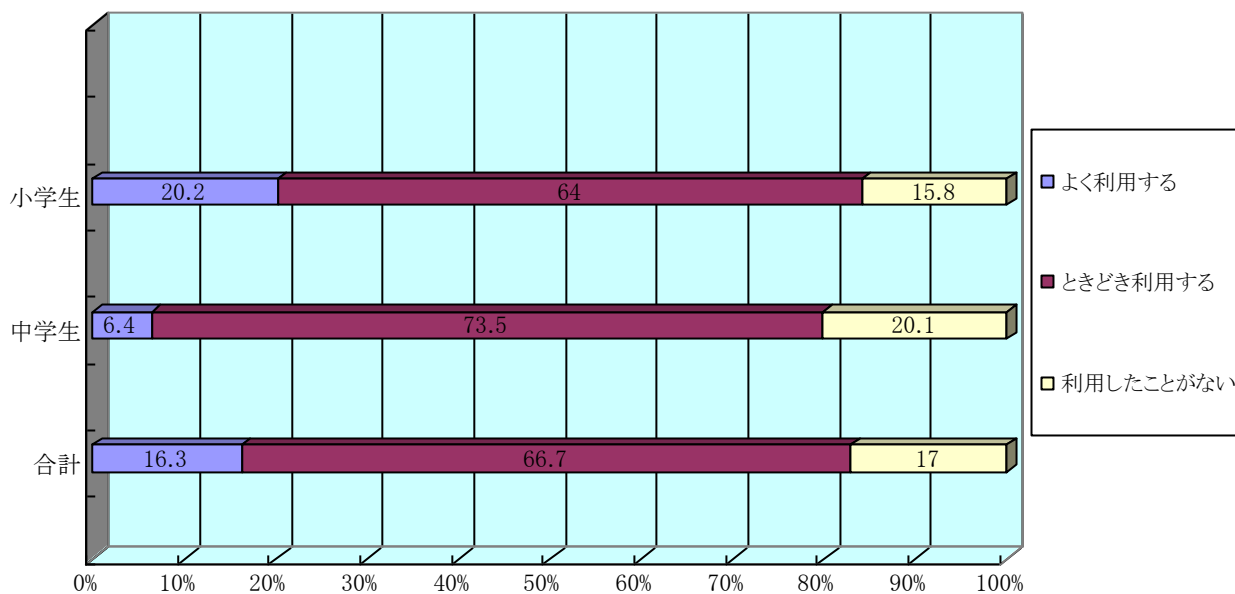


小・中学生ともに「自分でさがして」が半数近くの割合を占めており、次に「流行っている本」が小学生で14.2%、中学生で14.9%となっています。

【質問5】あなたは蕨市の図書館（分館を含む）を利用したことがありますか。

| | よく利用する | ときどき利用する | 利用したことがない |
|-----|--------|----------|-----------|
| 小学生 | 199 | 630 | 155 |
| 中学生 | 25 | 286 | 78 |
| 計 | 224 | 916 | 233 |

＜図書館の利用の有無＞

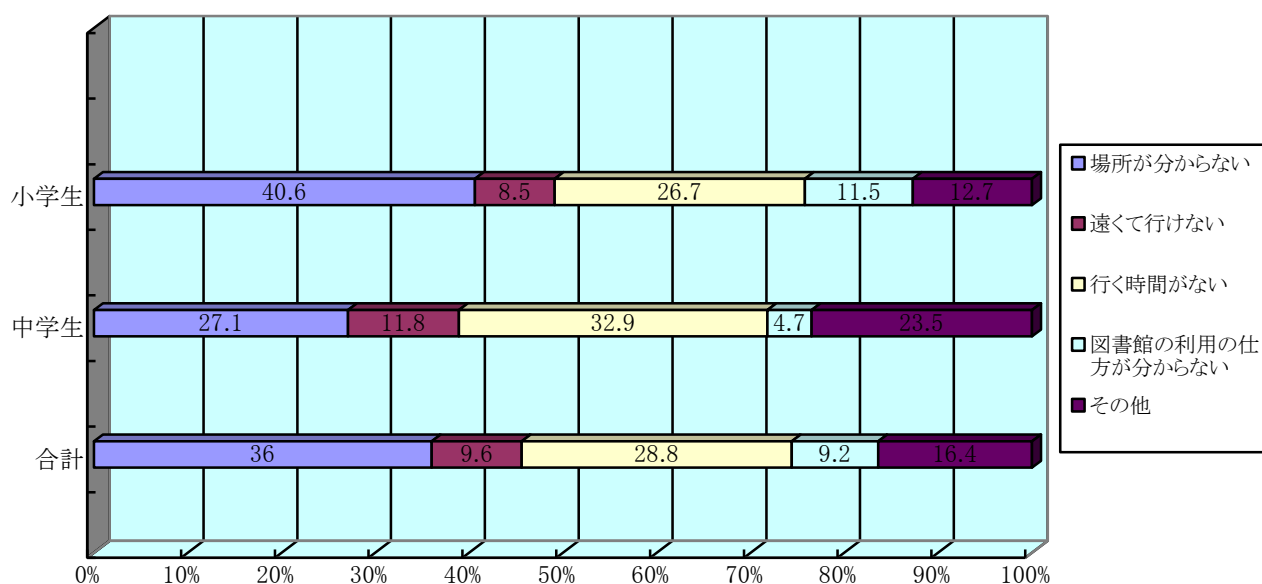


「よく利用する」「ときどき利用する」を合わせると、小学生では84.2%、中学生では79.9%となっています。

【質問6】 図書館（分館を含む）を利用したことがないのはなぜですか。

| | 場所が分からない | 遠くて行けない | 行く時間がない | 図書館の利用の仕方が分からない | その他 |
|-----|----------|---------|---------|-----------------|-----|
| 小学校 | 67 | 14 | 44 | 19 | 21 |
| 中学校 | 23 | 10 | 28 | 4 | 20 |
| 計 | 90 | 24 | 72 | 23 | 41 |

<図書館を利用したことの無い理由>



小学生では「場所が分からない」が40.6%で最も多く、次に「行く時間がない」が26.7%でした。中学生では「行く時間がない」が32.9%で最も多く、次に「場所が分からない」が27.1%となっています。

(3) 調査結果から見える課題

平成 23 年度と平成 30 年度の調査結果を比較すると、全体的には大きな変化はありませんが、本を読むことが「好き」「どちらかといえば好き」と答えた小学生は 81.9%となっており、中学生は 79.9%と高い値となっています。一方「きらい」「どちらかといえばきらい」と答えた小学生は 18.1%、中学生では 20.1%となり、本市においても年齢が上がるにつれて「読書離れ」が進む傾向にあります。

小学生・中学生ともに「ゲームやテレビ、他の遊びのほうが楽しいから」の割合が小学生は 31.5%、中学生は 23.4%と比較的高く、「活字離れ」の傾向が見られるものの、1か月の読書量については、「10冊以上」読むと回答した割合は、小学生は 24.6%、中学生は 6.2%で、前回調査と比べて、小学生では増加(1.9%)し、中学生では横ばいという結果でした。一方、「0冊」と回答した割合は、小学生は 7.3%、中学生は 9.5%で、小学生では増加(2.1%)したものの、中学生では減少(△3.0%)しています。引き続き「0冊」と回答した割合を減少させるためには、読書を習慣とする取り組みを進めていく必要があります。

また、蕨市の図書館(分館含む)を1回も利用したことがないと答えた小学生は 15.7%、中学生では 20.1%となっていることから、図書館のサービスや活動を更にPRすることや、早期からの読書の習慣化に向けて取り組む必要があります。

2. 前計画の取組と課題

前計画では、「家庭・地域、学校での子どもが読書に親しむ機会の提供と充実」、「子どもの読書活動を推進するための環境の整備・充実」、「子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進」、「子どもが読書に親しむための推進体制の整備」の4つの項目を基本方針に定め、家庭・地域、保育園・幼稚園、小学校・中学校、福祉・児童センター、図書館において、読書活動を推進する取組を行ってまいりました。

(1) 家庭・地域における子ども読書活動の推進

【取組】

家庭・地域における取り組みとして、保健センターでは、保健師と図書館職員で月2回、4か月児健診時に「ブックスタート」を実施し、読書活動のファーストステップとして定着しています。また、実施時には図書館の利用案内を同封し、利用者の増加を図っています。

また、子どもの読書活動に係わる団体・グループについては、図書館における読み聞かせや催し等に、必要な資機材の貸し出し及び選書、会議場所の提供等を行っています。

【課題】

保護者が読み聞かせや読書の大切さに気づき、子どもの読書活動の習慣化に積極的な役割を果たしていくことができるよう、「ブックスタート」以降に、ボランティア団体や関係機関と図書館が連携し、家庭での読書活動の活発化を図る必要があります。

(2) 保育園・幼稚園における子ども読書活動の推進

【取組】

保育園・幼稚園における取り組みとして、各園で保育士やボランティアによる読み聞かせが日常的に実施されているほか、子どもたちがいつでも絵本に親しめるような本棚の設置、読み聞かせや読書の大切さを伝える保護者への働きかけなどを行っています。

【課題】

各保育園で独自に推奨図書リストを作成するまでに至っていないことから、各保育園と図書館で連携して作成した推奨図書リストを活用し、保護者に情報提供していく必要があります。

(3) 学校等における子ども読書活動の推進

【取組】

小学校における取り組みとして、児童に読書を習慣づけるため、全校で一斉読書やボランティアによる読み聞かせを実施しています。また、中学校における読書活動推進の具体的な取り組みとして、平成26年度から学校図書館教育支援員が配置されたことにより、生徒の読書活動を支援する環境は整ってきています。

【課題】

小中学校ともに、各学校の実情に応じた推奨図書リストの作成については、各校でバラツキがあることから、学校教育課、司書教諭及び学校図書館教育支援員と図書館で連携して作成した推奨図書リストを活用し、読書活動の推進を図っていく必要があります。

(4) 福祉・児童センターにおける子ども読書活動の推進

【取組】

福祉・児童センターにおける取り組みとして、0歳～3歳児を各年齢別に分けた「乳幼児子育て支援事業」の中で、絵本の読み聞かせを行っています。また、平成28年10月より、偶数月に定期的に図書の団体貸出を開始し、同センターを利用する親子に読書を楽しむ機会を提供しています。

【課題】

福祉・児童センター、読み聞かせのボランティア団体と図書館で連携し、親子で参加できる「おはなし会」や「読み聞かせ」事業の充実を図り、読書活動推進の機会の提供に努める必要があります。

(5) 図書館における子ども読書活動の推進

【取組】

図書館における具体的な取り組みとして、発達段階に応じた児童書の充実をはじめ、各子ども向け講座や行事、図書館ボランティアの支援等を実施しています。また、図書館のリサイクル図書を提供するリサイクルフェアの前に、市内学童保育室等に情報提供し、子どもたちの読書環境の推進を図りました。

【課題】

今後は幅広い年齢層の子どもに対して、切れ目なく適切な読書活動を支援していくためにも、図書館が中心的な役割を担い、学校や施設、ボランティア団

体の状況を把握し、いっそう連携を深める必要があります。

また、児童書の選定や相談に十分な対応ができるよう職員の資質の向上を目指します。

(6) 計画の目標値

【家庭・地域における取組】

| 指標 | 平成 29 年度 〈現状値〉 | 平成 35 年度 〈目標値〉 |
|-------------------------|-------------------|-------------------|
| ブックスタートやお話し会のボランティア登録者数 | 37 人 | 42 人 |

【学校等における子どもの読書活動の推進】

| 指標 | 平成 29 年度 〈現状値〉 | 平成 35 年度 〈目標値〉 |
|--------------------------|-------------------|-------------------|
| 児童・生徒一人当たりの年間貸出冊数（学校図書館） | 13.28 冊 | 16 冊 |
| 1 ヶ月に 1 冊も本を読まない子どもの割合 | 7.9% | 5% |

【図書館における子どもの読書活動の推進】

| 指標 | 平成 29 年度 〈現状値〉 | 平成 35 年度 〈目標値〉 |
|---------------------|-------------------|-------------------|
| 児童書年間貸出冊数 | 133,177 冊 | 140,000 冊 |
| 年齢に応じた推奨図書リストの作成の割合 | 100% | 100% |

第3章 読書活動を推進する具体的な取組

1. 家庭・地域における子ども読書活動の推進

子どもが本に親しみ、読書習慣を身につけていくためには、子どもの生活の中心である家庭が、とても重要な役割を担っています。子どもにとってもっとも身近な存在である保護者が子どもの読書に関心を持ち、積極的に関わるのが大切です。

家庭で子どもが本に触れる環境づくりを支援し、地域で子どもと保護者が読書に親しむ機会を提供します。

(1) 家庭における読書活動への支援

①ブックスタートの実施

絵本の読み聞かせを通して、親子のふれあいと絆を深めるきっかけづくりを推進するため、子どもの読書活動のファーストステップとして保健センターでの4か月児健診にあわせてブックスタート事業を実施しています。ボランティアが「はじめての本」を手渡しして読み聞かせを行い、絵本の楽しさや絵本を通して親子の絆を深めることの大切さを保護者に伝えます。

②乳幼児と保護者を対象とした読み聞かせ講座

乳幼児のうちから、読み聞かせの楽しさや大切さを知っていただくよう、親子で参加する読み聞かせ講座を実施します。

③推奨図書リストの作成と配布

保育園の先生と図書館で連携して作成した推奨図書リストを配布し、子どもの年齢や発達段階に応じた読書活動を支援します。

④ボランティア講習会の開催

集団に向けて読み聞かせを行う人を対象に講座を開催します。

⑤団体貸出の実施

ボランティアや団体の活動を支援するため、大型絵本や紙芝居等の団体貸出を実施します。

⑥機材貸出・会議場所等の提供

ボランティアや団体の活動を支援するため、機材の貸出や会議場所等を提供します。

(2) 地域における取組

①福祉・児童センターでの取組

年齢や発達段階を考慮した蔵書の選定を行い、図書館の団体貸出と図書館のリサイクル図書を活用をすることで、子どもたちと保護者の身近な施設で本と触れ合える環境づくりを整備します。

②分館の図書資料の整備

市内3か所の分館の資料を充実させ、いつでも本が手に取れるよう整備します。

③公民館・児童館での絵本の読み聞かせ・お話会の開催

児童館と福祉・児童センター、公民館を中心に、地域の子どもたちに絵本の読み聞かせを実施します。特に、児童館では0・1・2・3歳児の年齢別で参加者親子を対象に絵本の読み聞かせを実施し、親子の絆を深めるとともに、絵本の読み聞かせの楽しさを伝えます。

2. 学校等における子どもの読書活動の推進

子どもたちが普段過ごす時間の多い学校で、読書機会を促すことが求められています。スマートフォンの普及等による読書環境への影響の可能性が懸念されていますが、読書する楽しさを学校等で指導することで、読書習慣を身につけられるよう支援します。また、学校と図書館が更に連携を深め、読書活動の充実を目指します。

(1) 保育園・幼稚園における取組

①読み聞かせの充実

園生活の中で年齢ごとに読み聞かせを日常的に実施することで、絵本や物語を楽しむ機会を設け、自ら絵本を楽しむきっかけづくりを支援します。

②本のある環境の整備

子どもたちが安心して図書に触れることができるよう、読書環境を整備し、発達段階に応じた選書を行います。幼児のための月刊誌を購入し、家庭に貸出を行います。

③親子で絵本に親しむ意義を啓発

家庭での読み聞かせを積極的に支援するため、クラスだより等を通して、子どもが絵本を楽しむ様子を保護者に伝えたり、一日保育士体験で、保護者に絵本や紙芝居を子どもたちに読んでもらい、読み聞かせを楽しむ様子を見もらうことで、読み聞かせの大切さを知る機会を設けています。

園と図書館で連携して作成した推奨図書リストを配布することで、家庭でも読み聞かせを行い、本に親しんでもうらやみにします。また、図書館は推奨図書リストの選定の支援を行います。

(2) 小・中学校における取組

①読書習慣定着のための活動推進

読書習慣を身に付けるために全校で一斉読書の実施、図書委員会児童による業間休みの本の貸出、学校ボランティア・教師・児童による読み聞かせや、夏季休業中の課題として読書感想文コンクールへの参加を行っていくことで読書機会の確保を図っています。

②家庭との連携

学校図書館や各クラスの本の貸し出しを行うとともに、各学校の実情に応じた推奨図書をのせた推奨図書リストを配布することで、生活の中心である家庭での読書の充実を支援します。

③ボランティア活動の推進

本の読みきかせや学校図書館の資料整備など、必要に応じたボランティア活動を推進します。

④学校図書館の充実

子どもたちの読書活動を支援していくため、夏休みすいせん図書の購入や選書の機会を設け、適切な蔵書管理を行います。学校図書館教育支援員や図書ボランティアで学校図書館の環境を整備します。また、学校図書館教育支援員が学校図書館を活用した授業の支援をします。

⑤図書館との連携

読書習慣確立のため、各学校と図書館が連携し、小学生には多くの本を読んだり読書の幅を広げたりするようにすることを旨として推奨図書リストの作成を行い、中学生には、内容に共感したり将来を考えたりする読書になるよう推奨図書リストの作成を行います。図書館から定期的にクラスごとに団体貸出しを行うことや、推奨図書リストの本の団体貸出しを行うことを通し、常に子どもたちの近くに本のある環境を整備します。また、図書館から授業で必要となる本のテーマ貸出しを積極的に活用します。

授業の一環として、図書館を訪問し、図書館についての質問をしたり、館内の見学をすることで、図書館利用への理解を深めます。(小学校) ワーキングウィークで図書館の業務を体験することで、図書館や本についての知識を更に深めます。(中学校)

⑥司書教諭を中心とした校内組織の活性化

全小中学校は学校図書館教育支援員を配置し、司書教諭・学校図書館教育支援員・図書ボランティアの連携体制を構築し、図書委員会児童・生徒の活動の充実を目指します。

⑦教職員研修の充実

児童・生徒の読書活動を推進するため、また、よりよい学校図書館運営のため

めの研修を行います。

3. 図書館における子どもの読書活動の推進

子どもにとって図書館は読みたい本を読むことができ、知識をより豊かにすることができる場所です。子どもが読書活動をより身近に感じ、読書の楽しみを知ることができる場所である環境づくりに努めます。

(1) 読書を支援する取り組み

①資料活用に関する取組

子どもたちのニーズに応じた資料の収集に努めるとともに、学校と連携し、授業等で使う調べ学習に対応した資料の充実を図ります。

②児童書コーナー

子どもたちに魅力ある図書の配置、レイアウトの構成に工夫を凝らし、行事に応じた展示を行うことや、古く希少価値のある児童書の収集・保存を行い、人気の本だけではなく、子どもたちに長く読まれている本が手に取れるよう発達段階に応じた児童書の充実に努めます。

また、図書館本館から離れた地域に居住している子どもたちに配慮し、各分館の児童書の充実に努めます。

③おはなし会・講座

本への興味に結びつくおはなし会や子ども向け講座を行います。また、本の世界をより身近に感じられるよう、夏や冬のおたのしみ会や講座での季節感を大切にします。図書館たんけん隊やワークショップなど、子どもたちが体を動かしながら参加できるイベントを通し、より図書館に親しみを感じてもらい、図書館の利用促進につながる工夫をします。

④ブックスタート事業

保健センターでの4か月児健診時にファーストブックを手渡しするとともに絵本の読み聞かせを行うブックスタート事業を実施し、絵本を介した親と子のふれあいの大切さを啓発します。

⑤図書館職員の資質向上

図書館職員の資質向上のため、積極的に研修に参加し、司書職員の適切な配置に努めます。

⑥障害のある子どもたちへの読書支援

すべての子どもたちが本を楽しめるよう、LLブック^{注1}や点字の本を含め図書の充実を目指します。

(2) 学校図書館やボランティア等との連携・協力

①学校と図書館の連携

学校と図書館が連携して、子どもたちが本に親しめるよう子どもの読書環境を整備します。子どもたちの身近にある本の環境づくりのために定期的に、学校のクラスごとに学年に応じた本を図書館で選んで貸出を行います。

②ボランティアとの連携・支援

読み聞かせボランティアの技術向上のため、講習会を行い、また、視聴覚機材・会議室の貸出を行うなど、積極的にボランティアへの支援を行います。

③推奨図書リストの作成

学校図書館運営にあたっては、図書館から学校司書や学校図書支援員向けに学年に応じた推奨図書リストの選書のための本の貸出を行うなど連携を図ります。

④相互貸借

県立図書館や他の図書館と連携して本を相互に貸し借りをを行い、図書の円滑な利用に努めます。

⑤児童・生徒の施設見学や職場体験等の受け入れ

小学生の施設見学を積極的に受け入れ、子どもたちの図書館への関心を高め、図書館の利用を促します。また、中学生に図書館で職場体験をしてもらうことで、図書館への知識を深め、読書への興味の向上を目指します。

(3) 子どもの読書活動の普及と啓発

①「子ども読書の日」等の取り組み

子ども読書活動の啓発のため、「子ども読書の日」にちなんだおはなし会や本の倍貸しを行っており、毎年「子ども読書の日」や「子ども読書週間」の普及のため、ポスターの掲示などにより、普及・啓発を推進します。

②アウトメディアの啓発

「蕨市アウトメディア宣言」に基づき、「子ども読書の日」とともに、普及・啓発を行います。

注1 知的障害や発達障害のある人にもわかりやすく、ふりがなや絵文字、大きな絵や写真、短い文章を使うなど理解しやすい工夫をした本